



1.4.5. フィンランドには自然が溢れ、約168,000もの美しい湖がある。自然と近い暮らしを好むフィンランドの人々は、ホリデーシーズンになると、水辺や森の近くにあるコテージなどでリラックスしたひと時を楽しむ。2. ヘルシンキ市内のマーケット広場。海岸沿いにあり、野菜や果物、手芸品などを扱う屋台が並び、観光客にも人気の場所。3. ヘルシンキにはさまざまなカフェがあり、みな思い思いに時間を過ごしている。

自然とデザイン その深い結び付きとは

私も小さいときからずっと森で遊んでいたし、ベリーやキノコなどの自然の恵みはみんなのものという考え方があるから、よく食べていました。サマーコテージはほとんどの家庭が所有していて、サウナがほぼ付いています。そこで夏の間、自然と近い素朴な暮らしを楽しんでいますよ」

フィンランドといえば、イッタラやアラビア、アアルト、フィン



This Month's Special

自然と デザインが宿る、 フィンランドの 暮らし



“日本から一番近いヨーロッパ”、そして“世界で一番幸せな国”として知られる北欧の国、フィンランド。自然と優れたデザインに囲まれたこの国での暮らしについて、お伝えしよう。

文／平林朋子 撮影／安彦幸枝
写真提供／フィンランド大使館、角田明子

“世界で一番幸せ”な フィンランドの暮らし

日本から約9時間30分のフライトで訪れることができるフィンランドの首都・ヘルシンキは、日本から一番近いヨーロッパ。そして、国連が発表した2021年の世界幸福度報告書により、幸福度が最も高い国としてフィンランドが第1位に選出された。これは4年連続の第1位獲得であり、世界初でもある。フィンランド大使館商務部の商務官であるラウラ・コピロウさんに、故郷の魅力を尋ねた。
「フィンランドには幸せになる理由がたくさんあるのですが、まず

レイソン、アルテックなどのセンスのよい食器やテキスタイル、家具などが思い浮かぶが、デザインと自然に関連性はあるのだろうか。「やはりフィンランドのデザインには、自然が好き人が多いと思います。例えば、私が今着ているのはマリメッコのワンピースなのですが、この花柄もそうですし、自然をモチーフにしていることが多いですね。家具もフィンランドの木材を使用したり、天然素材をよく用いています。それは四季に関係すると思っています。フィンランドは冬が長いので、夏は日本の桜と同じような感覚で儂く感じますし、待ち遠しいです。でも、2カ月くらいはかなくて、すぐ終

わってしまいます。だからこそ、デザインも夏に過ごした時間や出来事を大切にしていって、それを冬に思い出したり、感動したことをモチーフにしてテキスタイルを作ったりしているのではないかと思います。例えば、マリメッコの柄が作られた背景についてデザイナーに聞くと、サマーコテージで見た景色だったりするんですよ」
北欧の冬は長いから、短い夏の季節をフィンランドの人たちは心から謳歌する。そして冬の間、自宅にいる時間が長いからこそ、夏の思い出を胸に、心地よい暮らしができるようにと家の中を整えるのだ。それがデザインにも映し出されているのだろう。

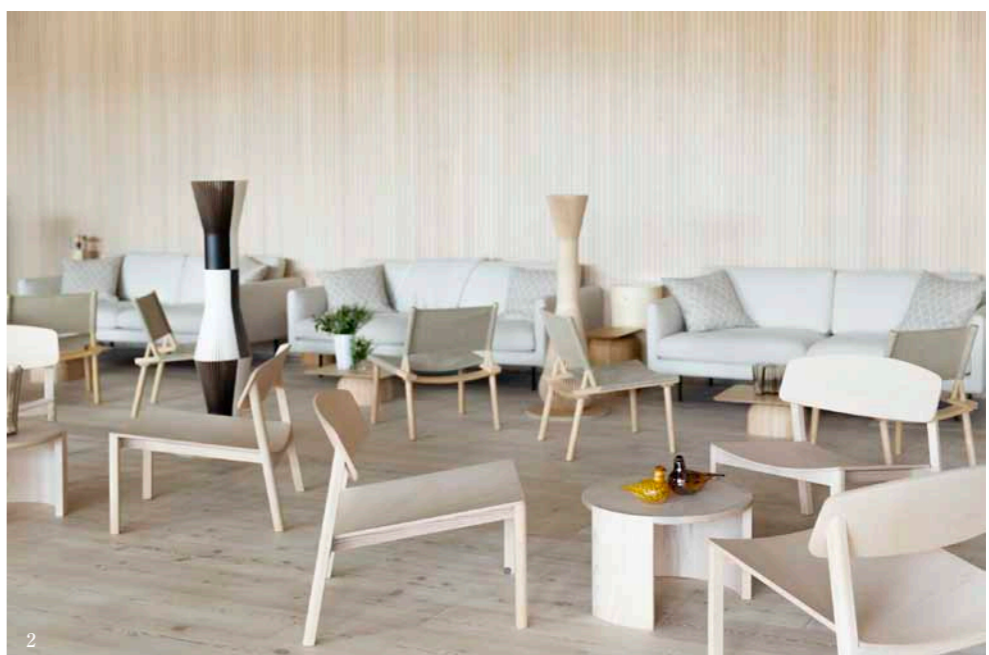


ラウラ・コピロウ／フィンランド大使館商務部
商務官 ファッション・ライフスタイル担当。日本への2回の留学後、ヘルシンキ大学を卒業、北海道大学大学院を修了。フィンランドと日本での企業勤務を経て、現職に就く。

お伝えしたいのは自然との共存ですね。国土の約75%が森林に覆われており、約16万8千もの湖があるんです。夏は白夜、冬は極夜とオーロラが体験できるんですよ」
とラウラさん。フィンランドに住む人や訪れるすべての人に「自然享受権」が与えられており、自由に自然のなかを探索したり、アウトドア活動を楽しんだりすることが認められているのだという。
「日本だとアウトドア活動をしに出掛けるという感覚だと思うのですが、フィンランドではいつも自然とともにあるという感じですね



「日本だと衣食住という言葉があります。フィンランドだと衣食衣という順番だと思います。うち時間が長い分、快適に自分らしく暮らせるようにとフィンランド人は考えてきたんですね。日本ではフィンランドのライフスタイルやインテリアがよく知られていますが、それは偶然ではないと思っています。フィンランド人がインテリアを意識して工夫したり開発して、木やリネン、石などの天然素材を多用しているから、海外でも有名になったのではないのでしょうか。日本では最近になってお



1.2.3.フィンランド大使館の敷地内にある「メツァ・パビリオン」。持続可能な森林環境で育てられたフィンランド産の木材を用い、企業や組織によるイベントやPR活動の場として使用されている。建築パーツは解体・輸送・再構築が可能で、12月末に解体された後、別の場所でリユースされる予定。施設内にはフィンランドのメーカーによる洗練された家具や照明器具、音響設備などが揃い、サウナも併設されている。4.フィンランドのインテリア、ファッション、コスメなど、企業の日本でのビジネスをサポートするラウラさん。5.「ザ・フィンランドデザイン展—自然が宿るライフスタイル」、鳥取県立博物館での展示風景（2020年）。

ち時間といわれますけど、フィンランドではずっとおうち時間なんですよ」と微笑む。
自宅にいる時間を楽しむために、フィンランドの人々は何のようなことを心掛けているのか伺った。

「長くものを大事にする文化が根付いていて、家具は最初から長く使えるものを意識して購入します。流行っているものよりも、自分らしいもの。これはサステナビリティを意識した行動だとも思っています。」

ない精神があつて自然を大事にするところなど、元々の考え方がよく似ていると思うんです。バブル時代に何でもモノが手に入る社会に発展しましたが、今の若い人はモノよりコト消費だし、最近のコトよりトキ消費と言うくらいなので、また変わると思うんですよ」

けで幸せを感じる。毎日繰り返される小さな幸せから、大きな幸せを実現できると思っています」

フィンランドを身近に感じる 展覧会とセミナー

フィンランドのライフスタイルを日本で広める活動を行い、セミナーの講師を務めることも多いラウラさんは、フィンランドの幸せの基準について、こう伝えている。「なぜフィンランド人の幸福度が高いかという点、もちろん福祉の高実や男女格差が少ないということなどありますが、そういった物理的なことだけでなく、幸せを感じる基準がシンプルなこともあるのでは。太陽が出ていて、ご飯が美味しくて、大切な人がいるだ

12月7日からBunkamura ザ・ミュージアムで行われる『ザ・フィンランドデザイン展—自然が宿るライフスタイル』。ヘルシンキ市立美術館監修のもと、マリメッコやフィンレイソンのテキスタイル、カイ・フランクのガラス工芸のほか、陶磁器や家具など1930～1970年代に制作されたプロダクトなどが展示され、フィンランドデザインの歩みを紹介。この展覧会に合わせ、TOKYU ROYAL CLUBメンバー様のために『フィンランド ライフスタイルセミナー』を開催。ラウラさんと、フィンランドを代表するインテリアブランド・アルテックのホームセールズ・ヘッドである林アンニさんを迎え、展覧会の内容をベースにフィンランドデザインについて、同



展の鑑賞券と図録も付く。「今はシンプルな考え方や、自分らしさを見付けることで幸せを感じられるという時代になりつつあると思います。その要素がフィンランドにはたくさんあつて、日本の方にも馴染みやすいですし、そういった体験ができるのがこの展覧会だと思います。代表的な作品が揃っているので、ご覧いただくと嬉しいですね」
フィンランドのライフスタイルに触れることで、これまでとは違う幸せを見付けるきっかけになるのではないだろうか。

This Month's Special



ます。ファッションも、自分が好きなものがわかっていて、本当に共感できるものだけを手に入れていけば、捨てるものがないんですよ。そして、とても重要だと思うのは、季節によって少し小物を入れ替えることで気分を変えて、家の中でも季節を感じられる空間作りをすること。家具は変えなくても、クッションカバーやテーブルクロス、お皿の色味や素材を変えたりするのもいいですね」

日本に複数回留学した経験を持ち、在住歴10年になるラウラさんは日本とフィンランドのデザインは親和性が高いと言う。

「例えばですが、ヨハンナ・グリクセンのテキスタイルは和室にマッチするし、フィンランドでよく使われるナチュラルな色味は日本の家にもよく合います。もつたい

メツァ・パビリオン
www.facebook.com/homeoffinland

(オイヴァ・トイッカ「ボムボム」花瓶)、セッポ・サヴェス「アンニカ・リマラ」リネン・ヴィータドレス、ヴォッコ・ヌルメスニエミ「ガッレリア」テキスタイルデザイン、アルヴァ・アアルト「サヴォイ」花瓶)



フィンランド大使館のラウラさんに伺う 『フィンランド ライフスタイルセミナー』

●日時 / 2021年12月21日(火) ①11:00～12:00 ②13:00～14:00 ③15:00～16:00
会場 / Artek Tokyo Store

TOKYU ROYAL CLUB 特典として、「フィンランド大使館のラウラさんに伺うフィンランド ライフスタイルセミナー」を実施します。詳しくはP42をご覧ください。

『ザ・フィンランドデザイン展—自然が宿るライフスタイル』

会期 / 2021年12月7日(火)～2022年1月30日(日)
休館日 / 1月1日(土・祝) 会場 / Bunkamura ザ・ミュージアム
※会期中のすべての土日祝、および最終週の1月24日(月)～30日(日)は【オンラインによる入場日時予約】が必要となります。詳細はBunkamura ザ・ミュージアム公式サイトにてご確認ください。
www.bunkamura.co.jp/museum/exhibition/21_Finland